令和４年度　第１回　大衡村総合教育会議　議事録

日時：令和４年１２月２３日（金）
午後２時３０分から午後３時４５分
場所：大衡村役場２階　会議室

○出席者：大衡村長　萩原達雄，教育長　齋藤浩
教育委員　齋藤さと子，教育委員　佐竹由加，教育委員　文屋栄悦
教育次長　岩渕克洋，学校教育課長　森田祐美子，課長補佐　布施智宏
社会教育課長　大沼善昭，課長補佐　浅野めぐみ
総務課長　佐野克彦，主事　澁谷優奈（書記）
○欠席者：教育長職務代行者　渡邊勇，主事　門間直人（書記）

１．開会（進行：総務課長　佐野克彦）
開会時刻：午後２時３０分

２．挨拶（大衡村長　萩原達雄）
〔省略〕

３．協議…大衡村総合教育会議設置要綱第４条第１項の規定により村長が議長となり進行する。

（１）長期欠席・いじめ等の状況について
＜萩原村長＞早速，協議に入ります。協議の(１)長期欠席・いじめ等の状況について説明をお願いします。

＜森田課長＞（資料１に基づいて，説明）

＜萩原村長＞長期欠席・いじめ等の状況について皆さんから何かご意見等々ありましたらお願いします。
長期欠席の状況ということでありましたが、年間３０日以上欠席の人のことか。

＜森田課長＞はい。

＜萩原村長＞１１月までに３０日以上になった人か。

＜森田課長＞はい。

＜萩原村長＞SNS が原因で休んでいる人はいますか。外国籍の生徒は母国に帰国していると理由がはっきりしているから良いと思いますが、岩渕教育次長の所感はどうか。

＜岩渕次長＞宮城県全体の数が発表されたが、県内全体で不登校については増えているということで間違いない。ただ、不登校といっても言葉の響きでまったく学校に来ていないというわけではなく、学校には来ているが、月に４，５日休むとこの日数になってしまうので、断続的な欠席となる。大衡村は在籍者に比べると多いということで懸念材料となっている。状況を見ると学校の方でも家庭の方と連絡を取って対応しているところだが、情報端末を持っている子どもたちが多いので、昼夜逆転になっているというケースも休んでいる子の中には多いというのが出てきている。

＜萩原村長＞コロナの関係で休んでいる人もいると思うが、それもカウントなっているのか。

＜岩渕次長＞発熱等であれば出席停止という部分になるがコロナ不安で休むとなるとカウントされず欠席になっている場合もある。

＜萩原村長＞不登校にはカウントされないということか。

＜岩渕次長＞発熱症状等がある場合は、学校長が認める場合は出席停止になるため欠席にはカウントされないが、例えば、一時期コロナのクラスターが流行って心配だという場合には、場合により欠席になることもありえる。

＜萩原村長＞教育長の所感はあるか。

＜齋藤教育長＞昼夜が逆転するのはゲームが原因かなとは思っている。小学生の小さい時からゲームをやっていると、依存性も高いと言われているので、そういうところを何とかしないと、そういったことが原因の不登校については減るんだろうなと思っている。

＜萩原村長＞ゲームというのがかなりウエイトを占めてくると思うが、世間一般に小さいうちから IT 機器を上手に使えるような子が社会に出たときに役立つということで、これで良いんだと思っている親もいるのではないか。世の中の風潮

が見られているのではないか。

＜岩渕次長＞今年の学力・学習状況調査、小学校６年生と中学校３年生を対象に行っているが、教科以外に生活意識調査という項目もあり、その中で、「毎日朝ごはん食べてますか」という項目が大衡村は県や全国とほぼ遜色ないが、「毎日決まった時間に寝ていますか」という項目は県よりも数値が下がっている。スマホやゲーム、インターネットに使っている時間、インターネットは勉強に使っている場合もあるため一概には言えないが、その時間も県に比べて使用時間が長いという部分が見えてきている。村長が言うように何らかの部分は影響があると思う。

＜齋藤教育長＞幼児期からの生活習慣を身に着けるような形にするため、妊婦さんの時から役場に来るので、福祉サイドだけではなく、教育サイドも一緒になってやっていく必要があるのではないか。学校に通い始めてから問題が出るのではなく、その前から兆候はあるのだからそういう風にならないようにみんなでしていく必要があるのではと思っている。

＜齋藤委員＞不登校と言っても一人一人理由が違うと思う。こころのケアハウスでスクールカウンセラーさんと親が面談する機会があり、年間５回。予約を取って話をする形だと思うが、日々親が抱えているものとかを聞いてもらえる場があると良いのかなと思う。そうなるために、信頼関係がないとなかなかそこまで話ができない。親は、ちょっと話を聞いてもらえると気持ちが楽になる。そこまでの信頼関係を作るために年間５日間では厳しい。本人プラス親向けのケアができたらいいのかなと思う。

＜萩原村長＞スクールソーシャルワーカーさんとかと話をしようという積極的なご父兄がいるのか。

＜齋藤委員＞そこを飛び出せない方はたくさんいると思う。我が子が不登校だったら悶々として、スクールカウンセラーさんとききょうルームで同じような環境の親同士で、気軽に話ができる環境が出来たら良いのではと思う。

＜萩原村長＞スクールカウンセラーさんやソーシャルワーカーさんはいつでも対応できるようにはしているが、肝心の親御さんや当事者が来ない、来るのを嫌がっているのもあると思う。
問題点をみんなで共有して良い方向に導いていければと思う。

＜文屋委員＞大衡とか宮城ということではなくて、いじめとか長期欠席とかの背景の一つには相手方に嫌われる何か、所謂発達障害とかそういったものも大きな要因になっているのかな。発達障害のことについて発表されたと思うが、かなり増えていると思う。大衡では例えばききょうルームなどでそういう子どもたちの受け皿としての体制を組んでいるし、学校側としても補助教育とか先生方のサポート等の環境は整っているが、発達障害の受け皿をどこまで学校ができているのか、やっていかなければいけないのかな、大衡村だけではなく、全国的な課題なのではないか。子どもの出生数が減っているのにも関わらず発達障害の子が増えているためいじめが増えていくのではないかと懸念している。そういう子の受け皿としてどういう体制を取っていかなければいけないのか心配している。

＜岩渕次長＞先週、県内全部の指導主事が集まっての指導主事会議があった。その中で話題になっている暴力行為、不登校同様に件数が増えている。その中で障害系の子どもが、自分の感情をコントロールできなくて結果的に暴力を振るってしまうケース、課長の方から話があった授業を抜け出すケースも件数が多くても、実人数でいうと同じ子が毎月抜け出しているケースが多いというのが宮城県全体の傾向として出ているところ。自分の思いが上手く伝わらないから、結果的に暴力で出してしまうとか、そういうケースはあると思う。学校としては、ソーシャルスキルトレーニングとかで、高まった感情を自分でどうしたら抑えられるか、保護者の協力を得ながら対応している。
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの話があったが、村の方としても教育委員会としても、ケアハウスについては、開設してから３年となるが、昨年度からスクールソーシャルワーカーはケアハウスに入ってもらっている。ケアハウスに来ている子と面談をしたり、必要に応じて学校との連携、家庭訪問を今年度結構な数で行ってもらっている。先ほど齋藤委員さんから話のあった、保護者も一緒に支えていく。そういった部分でスクールソーシャルワーカー、状況によってはカウンセラーが入っているケースが結構出てきている。

＜佐野課長＞職員研修で、仙台大学の先生に講演いただいた。不登校や臨床心理士、いじめ問題が専門となっている。「コミュニケーションとメンタルヘルス」という題名で研修を行った。例えば、小学校の PTA で講演会を開くのも一つの手かなと思う。その中で、「すべてを理解することはすべてを許すこと」という話があった。そういった部分を親御さん、PTA 関係で話しをしてもいいのかなと思った。

＜萩原村長＞「すべてを理解することはすべてを許すこと」ということは、この人は、こういう話し方、口調なんだと理解すれば、その人を全て許せる。そのためには理解するということだと思う。

（２）部活動の地域移行について

＜岩渕次長＞（資料２に基づいて，説明）

＜萩原村長＞皆さんから何かご意見ありますか。
現在の大衡中学校の部の数はいくらか。

＜岩渕次長＞今あるのは、野球、男子バスケットボール、男女のバレーボール、男女のソフトテニス、卓球、剣道、ここまでが運動部。文化部が吹奏楽部、美術部。運動部が６種目。文化部が２つとなっている。

＜萩原村長＞文化部と運動部は兼ねられるのか。

＜岩渕次長＞今後の検討だと思うが、ガイドラインを読むと興味のあるものとなっているため、あり方が変わってくるのでは思っている。

＜萩原村長＞柔道は男女ともないのか。

＜岩渕次長＞大衡中にはない。

＜文屋委員＞まだ示されたばかりということで分からない部分も多いと思うが、例えば、高校野球の県大会とかだと学校単位で生徒が集まらなくて、統合で出ていると思うが、これは、既に地域移行になっているパターンなのか。

＜岩渕次長＞多分、考え方が合同チームという考えが入ってきたのが、子どもたちがやっているのに活躍の場面がないというところから入ってきた。その場合に、強いチームと強いチームが一緒になったことがあって条件があった。例えば、週に２日は一緒に練習をできることや距離的なもの。団体種目の競技、例えば、野球の球技とか集めるのが学校規模によっては非常に困難ということがたくさん出てきている。中には、３校合同チームというのも出てきている。

＜文屋委員＞今後それが、地域移行の一つの例にもなってくるのか。

＜岩渕次長＞今、示されているのが、市町村単位が主なイメージだと思う。大衡の場合だと今後大衡だけでできるものなのか今後の示され方によって、近隣と合同でできるものなのか、これから情報を得ながらだと思っている。

＜齋藤教育長＞資料２の２ページ目、休日の地域クラブ活動の運営団体・実施主体のところに地方公共団体、複数の団体の連携を含むとなっているため想定場は入っている。受け皿が多い種目もあれば、まったくない種目もある。そういった時にどうするのか、全然わからない。

＜岩渕次長＞今から細かい部分が提示されるとは思っている。

＜萩原村長＞新たな地域活動の中で、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業というのは、どういう風に理解すれば良いか。

＜岩渕次長＞例えば、大衡中学校で野球部の顧問をしている先生は、学校の校務分掌で指定されてやっているが、これからはあくまでも地域で部活動になるので、そこの指導者として先生が登録、兼業となる。教員ではなくスポーツクラブの指導者という形で部活動を指導するようになる。

＜萩原村長＞それに対して、報酬は別に出るということか。

＜齋藤教育長＞対価を払う時、運営経費が必要となり、その場合、部活動に参加する子どもから会費を取らなくてはいけなくなる。保護者の負担が増えてくるなど、いろんな問題が出てくる。

＜萩原村長＞大衡の場合は何に力を入れるかを絞れば、野球なら野球に力を入れましょうと公費で報酬を賄うことができると思うが、入らない人にとっては不満となる。１つに絞るのではなく、２つ、３つにする。６つ、８つあるからといって分散してしまうと効率が悪い。ただ、そうなってくると自由な選択が阻害される。

＜齋藤委員＞学年によって野球部が多い学年があったりして、開けてみてようやくわかる。また、１学年ごとに部活を変えるわけにもいかない。

＜齋藤教育長＞部活について、大きな転換期なので教育委員会側の説明はされているが首長たちはどこまで話しを知っているか、連携するとなった時に話を知ってないと駄目なのではないかという話題となった。

＜萩原村長＞これについては、まだ案ということで、具体的な話がまた出てくると思うので、注意深く見ていきたいと思う。
ということで、皆さん、他に何かあるか。（なし）

＜佐野課長＞閉会の挨拶を教育長、お願いします。

＜齋藤教育長＞挨拶〔省略〕

＜佐野課長＞以上をもちまして令和４年度第１回大衡村総合教育会議を終了とする。大変お疲れ様でした。

４．閉会

閉会時刻：午後３時４５分

本議事録は事務局書記が記載したものであるが，その内容に相違ないことを証明するためここに署名する。

令和４年１２月２３日

大衡村総合教育会議出席者

大衡村長　萩原達雄

教育長　齋藤浩

教育委員　文屋栄悦

教育委員　佐竹由加

教育委員　齋藤さと子